

一級河川庄内川水系
庄内川上流圏域 河川整備計画

平成25年10月1日
(平成26年10月17日一部変更)

愛 知 県 ・ 名 古 屋 市

目 次

1 . 圏域及び河川の概要	1
1.1 圏域の概要	1
1.2 河川の概要	11
1.3 河川の現状と課題	29
1.3.1 治水の現状と課題	29
1.3.2 水利用及び環境の現状と課題	35
1.3.3 河川整備に関する住民の意向	39
2 . 河川整備計画の目標に関する事項	41
2.1 河川整備の基本理念	41
2.2 河川整備計画の対象区間	43
2.3 河川整備計画の対象期間	45
2.4 洪水等による災害の発生の防止又は軽減に関する目標	45
2.5 河川の適正な利用及び流水の正常な機能の維持に関する目標	46
2.6 河川環境の整備と保全に関する目標	46
3 . 河川の整備の実施に関する事項	47
3.1 河川工事の目的、種類及び施行の場所並びに当該河川工事の施行により 設置される河川管理施設の機能の概要	47
3.2 河川の維持の目的、種類及び施行の場所	67
3.2.1 河川の維持の目的	67
3.2.2 河川の維持の種類及び施行の場所	67
3.2.3 河川情報の提供	68
< 附 図 >	
平面図及び縦断図	69
< 参 考 >	
河川整備計画用語集	77

庄内川上流圏域河川整備計画は、庄内川上流圏内に位置する守山川、隅除川が平成 21 年 4 月に、平成 23 年 4 月に長戸川及び野添川の河川管理権限が愛知県より名古屋市に河川管理権限委譲がなされたことから、愛知県と名古屋市が協働し作成した。

(注)

本計画は、平成 26 年 10 月 17 日に一部整備内容の変更を行いました。計画の対象期間は当初計画策定から概ね 30 年間のまま変更ありません。

1．圏域及び河川の概要

1.1 圏域の概要

庄内川は、その源を岐阜県恵那市の夕立山（標高 727m）に発し、愛知県と岐阜県の県境の山地を横断して愛知県に入り、春日井市と瀬戸市の市境を南西に流下し、名古屋市の西部を取り巻くように南流して伊勢湾に注ぐ、河川延長約 96km、流域面積約 1,010km² の一級河川である。

愛知県・名古屋市は、庄内川水系の支川である管理河川の河川整備計画を策定するにあたり、愛知県内の庄内川流域を 3 圏域に分けた。その一つが『庄内川上流圏域』である。

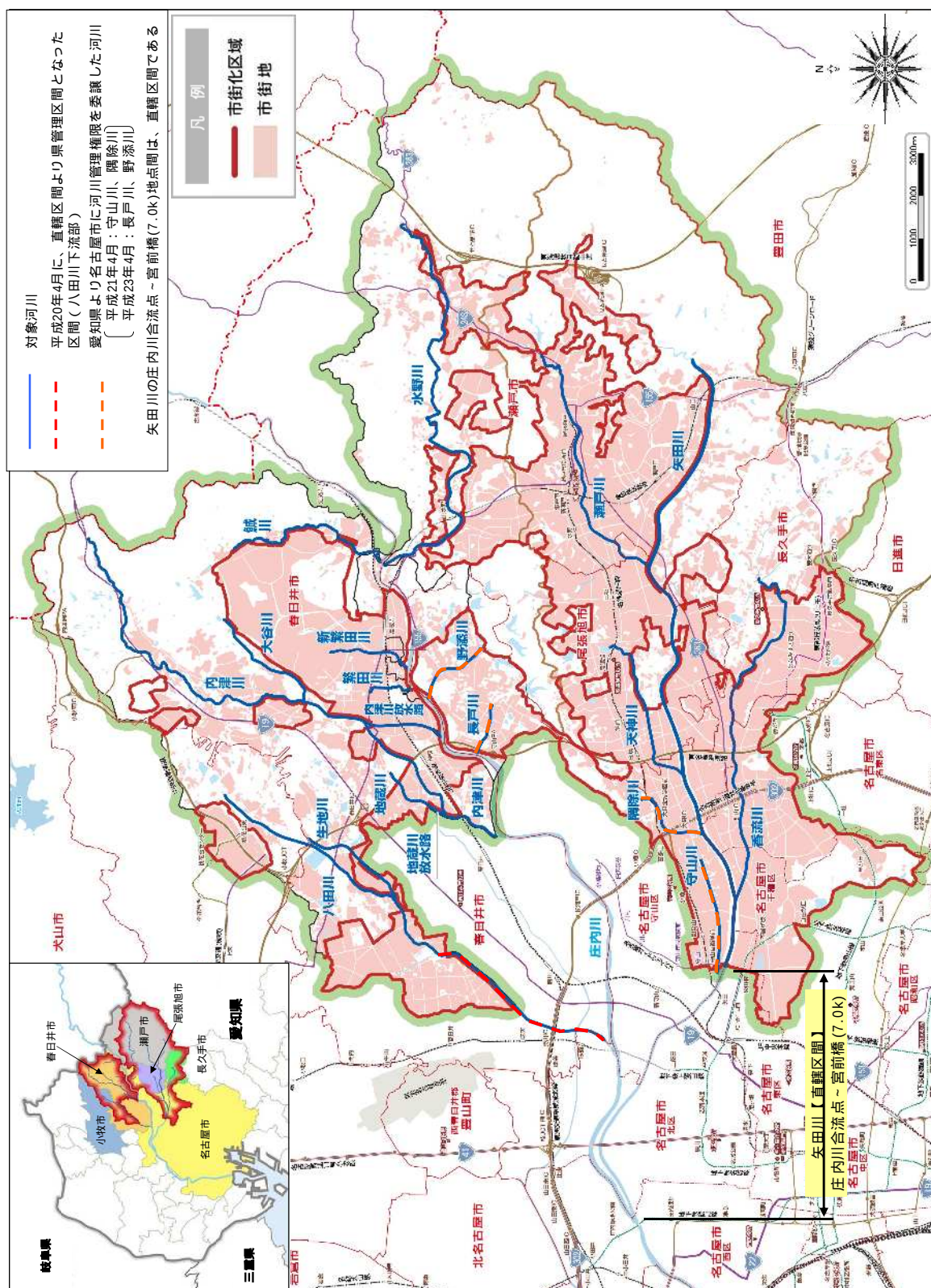
庄内川上流圏域は、庄内川下流の右岸に位置する新川圏域と下流の左岸に位置する堀川圏域の上流に位置し、岐阜県県境に至るまでの圏域であり、圏域面積約 227km² である。圏域には矢田川、八田川、内津川など多くの支川が位置し、圏域内の河川総延長は約 97km に及ぶ。なお、庄内川上流圏域は、矢田川の県管理区間とその支川で構成される『矢田川ブロック』と、庄内川本川に直接合流する管理河川とその支川で構成される『庄内川上流ブロック』に分けられる。

庄内川上流圏域は、名古屋市、瀬戸市、春日井市、小牧市、尾張旭市、長久手市の 6 市にまたがる。

平成 15 年時点の土地利用状況は、市街地が約 50%、水田や畑地等の農地が約 12%、山林が約 38% を占めている。圏域内は、名古屋市の発展に伴って急速に流域開発が進み、圏域内の市街地面積のうち約 80% が市街化区域であり、圏域内人口は約 63 万人（H17 国勢調査）である。



図 - 1.1.1 庄内川上流圏域 位置図



地形・地質

圏域内は山地部、丘陵部、平地部に区分される。

山地部は、流域の東南部の豊田市との市境に位置する猿投山^{さなげ}から北東部の春日井市の道樹山^{どうじゅさん}に連なる花崗岩からなる標高 300～400m 程度の山地で、山麓にはアカマツを主体とした雑木林、山腹にはヒノキの造成林がある。

丘陵部は、山地から沖積平野に至る標高 100～200m 程度の起伏の緩やかな丘陵地で、南東部の豊田市付近から瀬戸市、春日井市、小牧市にかけて連なる丘陵地は、「尾張丘陵」と呼ばれており、新第三紀^{しんだいさんき}あるいは更新世^{こうしんせい}の丘陵地である。

丘陵地の下流面は標高 30～100m の平地で、内津川、八田川、矢田川や瀬戸川等の支川によって形成された沖積低平地帯で、西に行くにしたがって徐々に低くなっている。

平地部は、ほとんどが砂礫^{されき}からなる堆積物で、庄内川沿川では春日井市南部から、また、矢田川沿川では尾張旭市付近から下流に向かって、肥沃な沖積平野が広がっている。この平地部は、現在は名古屋市を中心として都市が形成されている平坦な濃尾平野に位置する。

圏域内の平地部の大部分は、かつて肥沃な土地であることから、耕地として利用されていたが、昭和 40 年頃から、名古屋市への利便性の向上に伴い、土地の高度利用が進展し、現在では圏域内の平地部の大部分が耕作地から市街地となっている。

気 候

圏域は中部日本の太平洋側に位置し、日本の気候区分では東海式気候区分に属しており、比較的温暖で年間を通じて快晴の日が多い。特に、冬季には、晴天が続き、降雪日はきわめて少ないが、強い季節風が吹く一方、夏期は、暑い気候を呈している。

名古屋市(名古屋地方気象台)の昭和 52 年から平成 24 年までの平均年間降水量は約 1,550mm、年平均気温は約 16 であり、梅雨季と初秋季に降水量が多く、冬季に少なくなっている。

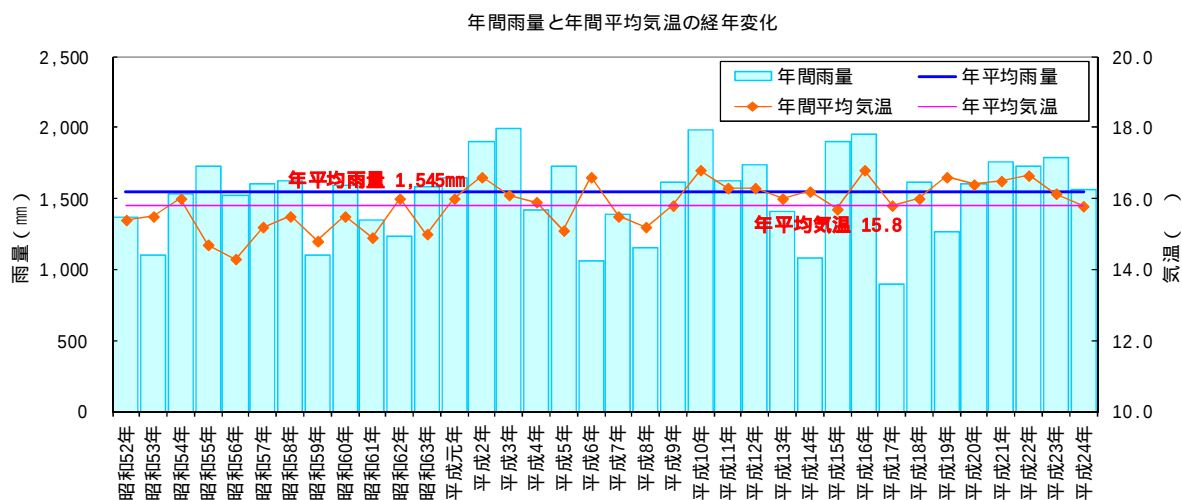


図 - 1.1.3 庄内川上流圏域の気象【名古屋地方気象台：昭和 52 年～平成 24 年】

自然環境

圏域内は、名古屋市への利便性により、^{こうぞうじ}高蔵寺ニュータウンをはじめ丘陵地の大規模な宅地開発が進められ森林が減少しているが、河原や残された河川の周辺の農耕地には、数多くの小動物、鳥類が生息している。

鳥類は、河道内でカワウやゴイサギ、コサギ、アオサギ等のサギ類が普通に見られ、冬季にはマガモ、コガモ、ヒドリガモ、オナガガモ等のカモ類が各所に飛来している。また、河道周辺ではイソシギ、キセキレイ、ハクセキレイ、カワセミなどのほか、河原のヨシ原にはホオジロ、カワラヒワなどの留鳥やセッカ、オオヨシキリ(夏季)、アオジ(冬季)などの渡り鳥も見られる。

一方、河道内の植生は、河川改修による護岸や高水敷等の整備により、自生植物が減少し、ヨモギ、メヒシバ、オオオナモミ、ススキなどが分布し、中・上流部ではツルヨシ、セイタカヨシ群落が多く見られ、野鳥や昆虫の生息域を提供している。また、外来種のセイタカアワダチソウは、圏域内に広く分布している。

社会環境

圏域内の主要交通網は、主要幹線道路として、東名高速道路、名古屋第二環状自動車道(東名阪道)、国道 19 号、国道 155 号、国道 248 号等が縦横に走り、名古屋市中心部と周辺各都市を結んでいる。鉄道網は、JR 中央本線、名鉄瀬戸線、愛知環状鉄道が位置している。

土地利用状況は、名古屋市のベッドタウンとして昭和 40 年代から急速に市街化が進み、市街化率は、昭和 43 年には約 16%であったが、平成 15 年には約 50%までに増加した。それに伴い圏域内市区の人口は、昭和 40 年の約 50.5 万人から平成 24 年には約 106.8 万人に大きく増加した。

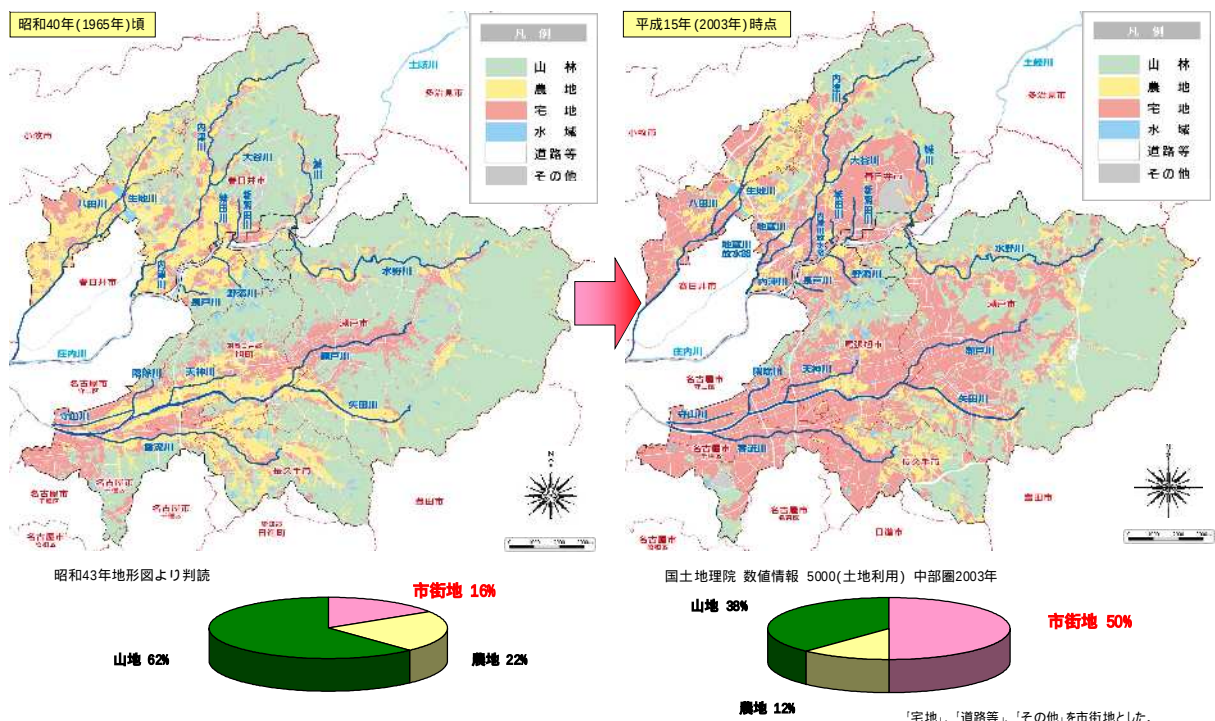


図 - 1.1.4 庄内川上流圏域の土地利用

圏域は、交通網の発展に伴い、河川沿いの低平地部を中心に多数の土地区画整理事業が実施され、また、丘陵地においても高蔵寺ニュータウンに代表されるような大規模な宅地開発が行われ、市街地が形成されてきた。

現在、圏域内では、名古屋市が認可した上志段味、^{かみしだみ}中志段味、^{なかしだみ}下志段味^{しもしだみ}特定土地区画整理事業が実施されているほか、春日井市、瀬戸市、尾張旭市、長久手市においても土地区画整理事業が施行されており、市街地の進展が今後も想定される。

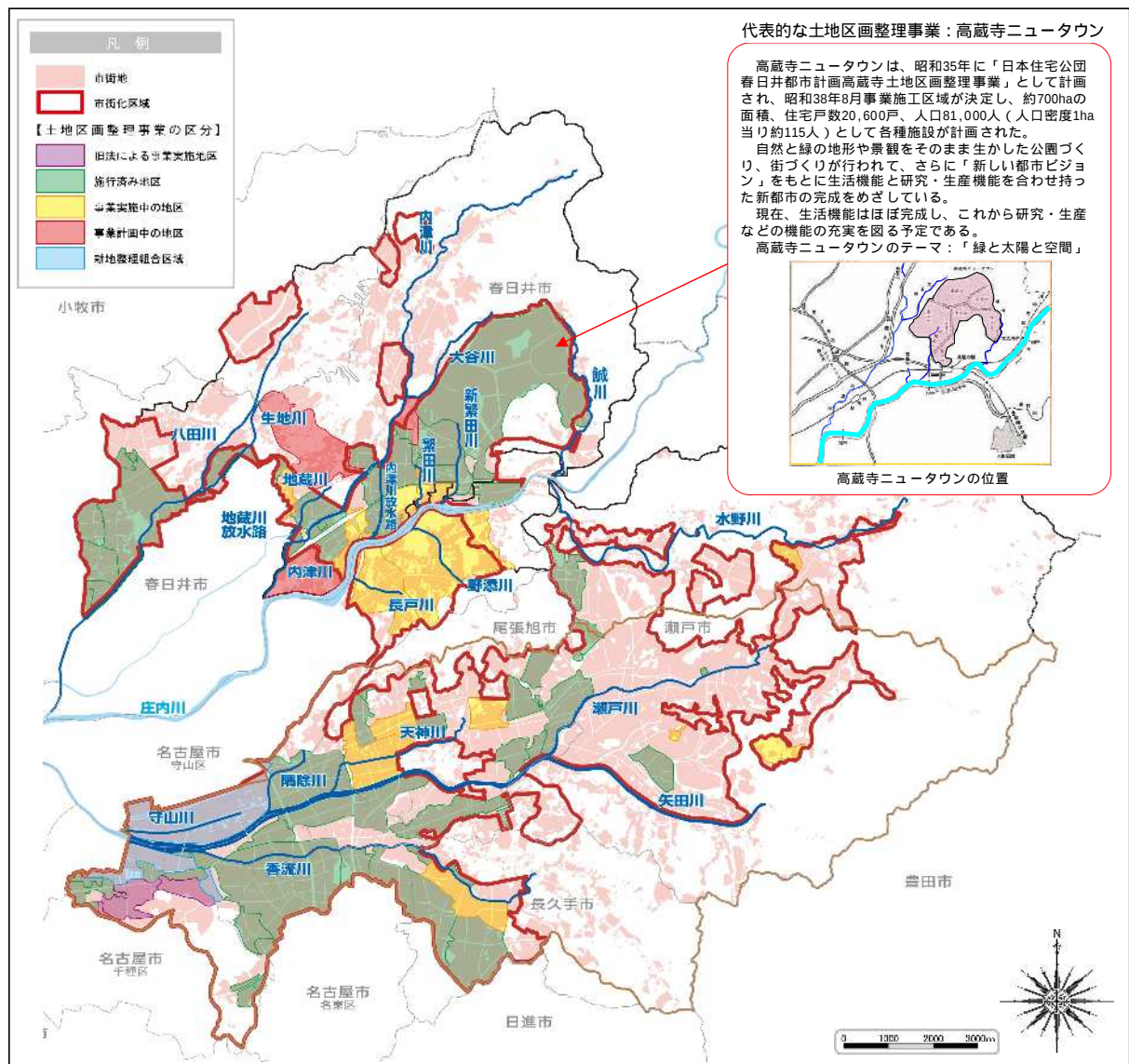


図 - 1.1.5 土地区画整理事業の実施状況

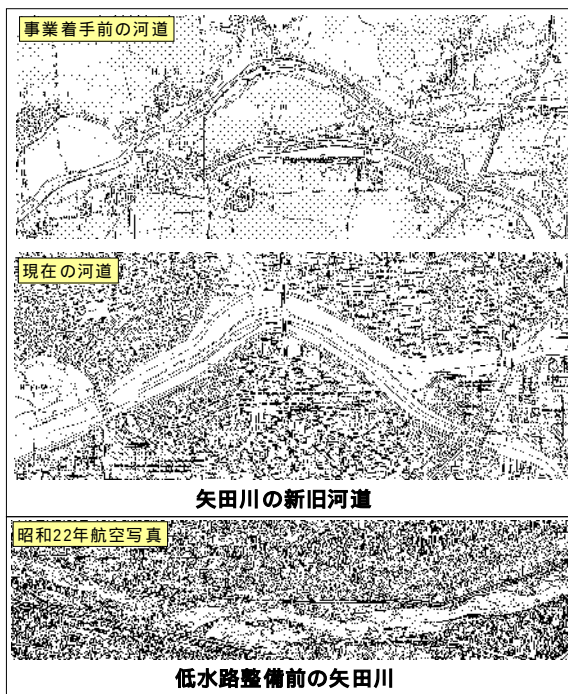
歴 史

本川である庄内川は、昭和 44 年に一級河川に指定された。庄内川の一次支川では、矢田川の庄内川合流点から宮前橋の約 7.0km 区間が、昭和 48 年に直轄区間に編入された。また、八田川については、昭和 58 年に、「**流況調整河川木曽川導水事業**」の採択に伴い八田川の新木津用水流入点より下流区間が直轄区間に編入された。(平成 12 年の同事業の中止に伴い、平成 20 年 4 月に同区間は県管理区間となった。)

矢田川の宮前橋より下流区間は、直轄に編入される以前は、戦中・戦後の期間を除いて、愛知県が河川改修を実施した。昭和 5 年から昭和 7 年の矢田川の合流点付替工事は愛知県が実施したが、合流点から約 9km 間の戦時中の築堤工事は内務省直轄工事で進められた。その後、上流地域からの流出土砂により流心が常に変動し、堤防への流水の衝突の著しいところが生じていたため、昭和 25 年から昭和 33 年に、庄内川合流点から香流川合流点の 7km 間を対象に、流心の固定化を図る床固めの設置や低水路の整備を愛知県が実施した。その後も同区間を対象に、根固め工などが行われ、昭和 48 年に直轄区間に編入された。

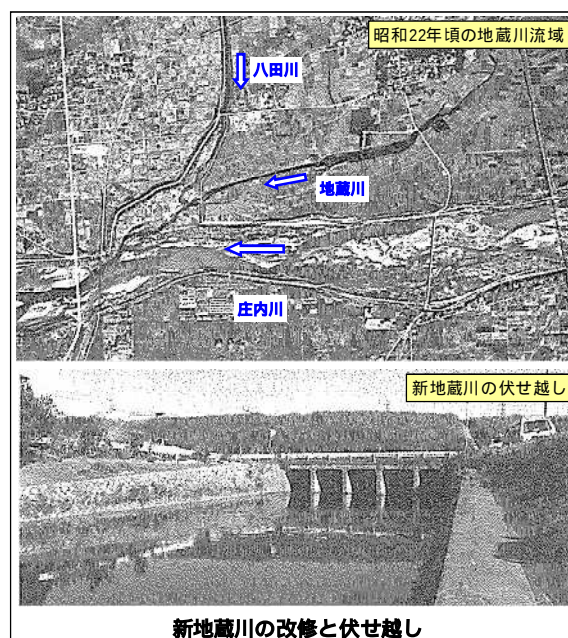
現在の八田川は、合流点より約 1km 地点で新地蔵川と交差している。これは、地蔵川が従来低平地の排水を集め八田川とともに庄内川に合流し、庄内川の出水に会えば排水ができなくなり、内水氾濫が発生していたため、新川まで新水路(新地蔵川)を開削して抜本的に氾濫の被害を除去する工事により現在の河道形状となった。この工事は愛知県が実施し、昭和 32 年に新地蔵川の開削に着手し、昭和 43 年に概成した。

流況調整河川木曽川導水事業は、木曽川、新川、庄内川を結ぶ新しい河川を建設し、地域の水害を軽減し、関係河川の流水の正常な機能の



出典：「建設省庄内川河川工事事務所 20周年記念 庄内川 その流域と治水史」

図 - 1.1.6 矢田川下流の河川改修



出典：「建設省庄内川河川工事事務所 20周年記念 庄内川 その流域と治水史」



図 - 1.1.7 八田川と地蔵川の交差点

維持増進をはかり、さらに新たな水資源の開発などを行う多目的事業であった。この事業は昭和 43 年に建設省にて予備調査が開始され、昭和 47 年実施調査に入り、昭和 58 年建設事業に採択された。流況調整河川木曽川導水事業は、木曽川からの清流を木曽川のいぬやま犬山頭首工上流左岸で分流し、木津用水、新木津用水に沿って新川諸支川と交差しながら支川の洪水を受けて流下し、その後八田川に合流させ、庄内川の庄内川頭首工上流地点で洪水流を庄内川に流し、一方、木曽川からの清流は庄内川、矢田川を伏せ越して横断し、堀川へ流す多目的事業であり、延長 22.4km の流況調整河川の建設を目的としたものである。そのルートに八田川の下流区間が位置づけられたことにより、昭和 58 年に八田川の新木津用水流入点より下流区間が直轄区間に編入された。その後、平成 12 年に木曽川導水事業が中止になり、それに伴い平成 20 年に八田川の直轄区間であった新木津用水流入点より下流区間が再び愛知県管理となった。

また、春日井市に位置する内津川は、名古屋市のベッドタウンとして高蔵寺ニュータウンなどの大規模な宅地開発などによる市街地の進展に対応するために内津川放水路が計画され、平成 9 年度に完成した。また、水害が頻発する地藏川・新地藏川の被害軽減を目的に地藏川放水路が平成 21 年度に完成した。

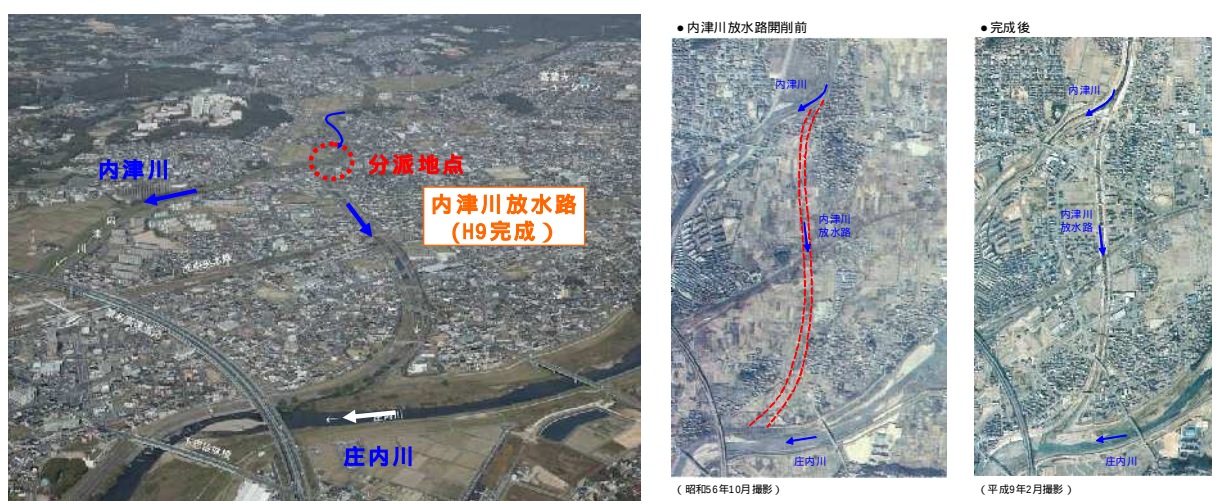


写真 - 1.1.1 内津川放水路



写真 - 1.1.2 地藏川放水路

圏域内の河川は、市街地の進展に伴い河川改修が順次行われてきた。

名古屋市・尾張旭市に位置する天神川及び春日井市に位置する繁田川・新繁田川などでは、沿川の土地区画整理事業の実施に伴い、流路の変更を伴う河川改修が実施された。

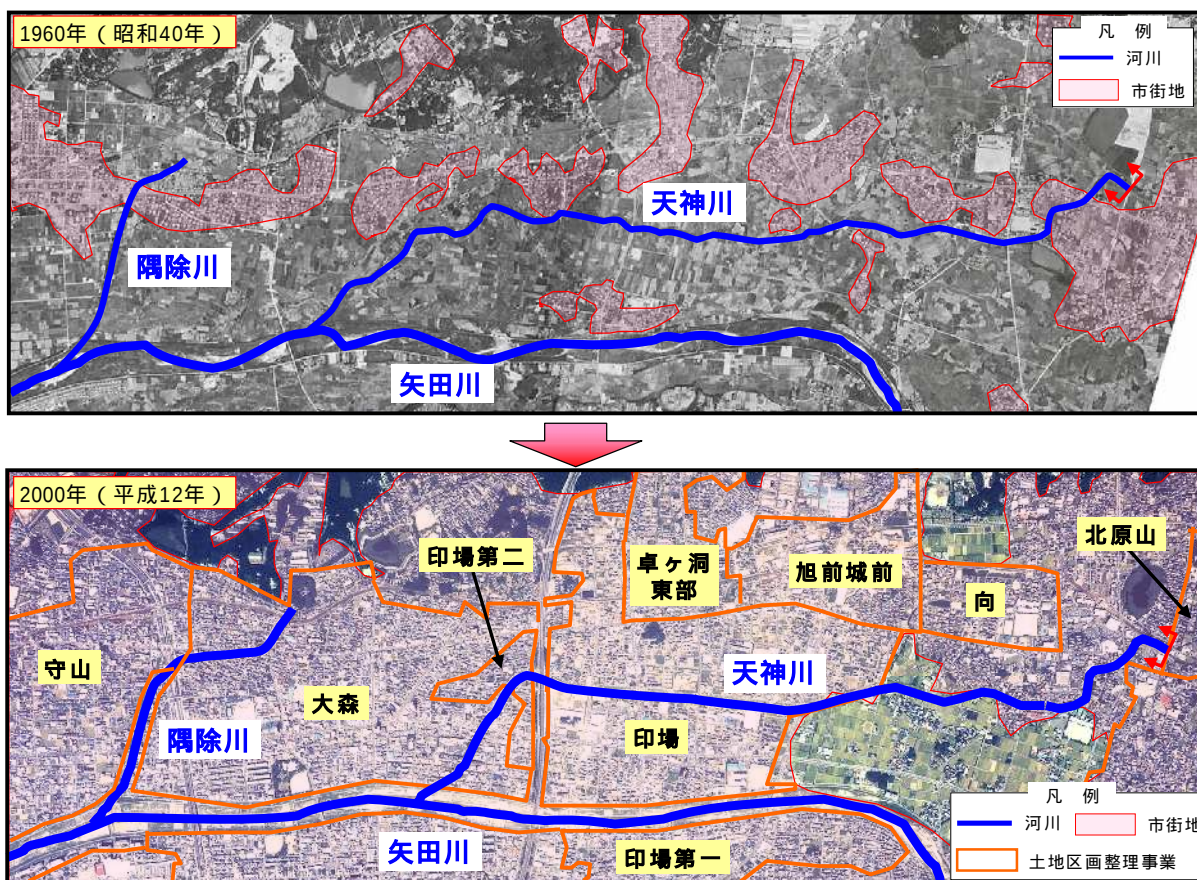


図 - 1.1.8 天神川の変遷

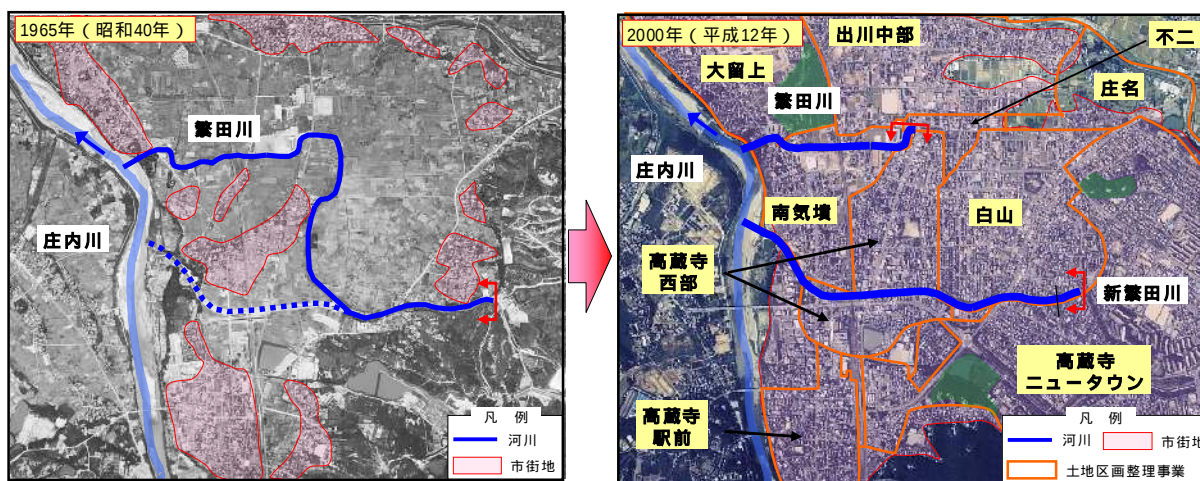


図 - 1.1.9 繁田川・新繁田川の変遷

河川空間の利用

庄内川上流圏域では、河川空間を利用した緑地・緑道の整備や、公園と一体となった河川の整備などを関係市と連携し実施してきた。そのため、地域住民に親しまれている河川空間が多く存在する。



写真 - 1.1.3 地域住民に親しまれている河川空間

矢田川の瀬戸川合流点より上流では、平成9年から平成12年に、「水辺の緑の回廊」整備事業で、沿川住民と協働で、堤防法面に植樹を行い、それら植樹した樹木の生長に伴い河川環境が豊かになり、周辺景観に調和した景観が形成されてきた。

また、瀬戸川では、「瀬戸川文化プロムナード計画」により市街地再開発等の街づくりと一体となった河川改修が実施されている。



写真 - 1.1.4 「水辺の緑の回廊」整備事業、「瀬戸川文化プロムナード計画」による河川の整備状況

1.2 河川の概要

庄内川上流圏域は、矢田川の県管理区間とその支川で構成される『矢田川ブロック』と、庄内川本川に直接合流する管理河川とその支川で構成される『庄内川上流ブロック』に分けられ、17の管理河川からなる。

表 - 1.2.1 庄内川上流圏域の河川

ブロック名	河 川 名			流域諸元		河 川 管理者
	本川	管 理 河 川		河川延長 (km)	流域面積 (km ²)	
		一次支川	二次支川 又は 分派川			
矢田川 ブロック		や だ 矢 田 川		15.4	111.4	愛知県
			もりやま 守 山 川	2.7	2.6	名古屋市
			かなれ 香 流 川	8.9	28.3	愛知県
			すみよけ 隅 除 川	1.9	2.6	名古屋市
			てんじん 天 神 川	3.8	8.4	愛知県
			せ 瀬 と 戸 川	6.2	15.7	愛知県
庄内川上流 ブロック	庄 内 川	は っ た 八 田 川		11.6	19.5	愛知県
			い く じ 生 地 川	2.8	4.3	愛知県
		う っ つ 内 津 川		14.8	31.3	愛知県
			【内津川放水路】	1.8		愛知県
			お お た に 大 谷 川	2.8	5.4	愛知県
			じぞう 地蔵川(上流)	1.8	4.0	愛知県
		な が と 長 戸 川	1.2	4.8	名古屋市	
		の ぞ え 野 添 川	1.8	6.3	名古屋市	
		し げ た 繁 田 川	1.1	2.0	愛知県	
		しんしげた 新繁田川	2.1	3.3	愛知県	
		みずの 水 野 川	11.7	38.2	愛知県	
		うぐい 鰻 川	4.4	10.2	愛知県	
		庄内川上流圏域			96.8	227.0

地蔵川放水路と地蔵川上流を一連として「地蔵川(上流)」と表記

【矢田川ブロック】

矢田川ブロックに位置する河川は、矢田川及び矢田川に合流する^{もりやま}守山川、^{かなれ}香流川、^{すみよけ}隅除川、^{てんじん}天神川、^{さと}瀬戸川の6河川であり、ブロック面積は約 111.4km² である。



図 - 1.2.1 矢田川ブロック図

○ 矢田川

矢田川は、瀬戸市と豊田市の境に位置する^{さなげ}猿投山(標高 629m)の山麓に源を発した^{あかつ}赤津川が瀬戸市赤津を流下後、^{かいしよ}海上川の合流点より、『矢田川』と名を変え、^{だいりく}大六川、^{みなせ}水無瀬川等の小河川と合流し、瀬戸市の中心市街地を貫流している瀬戸川と合流した後、西に流路を取り、平地部で天神川、隅除川、香流川、守山川と合流した後、名古屋市北区^{ふくどく}福德町・西区^{いのう}稲生町辺りで本川となる庄内川に合流する河川延長約 22.4km、流域面積約 125.2km²の河川であり、庄内川支川の中で最も大きい河川である。この内、県管理区間は、^{みやまえ}宮前橋(7.0k)より上流区間であり、河川延長約 15.4km、流域面積は約 108.8km²の河川である。

矢田川は、瀬戸市から尾張旭市、名古屋市東北部にかけて位置し、流域内は上流から山地部、丘陵部、平地部に区分され、下流の沿川は大半が市街地となっている。

矢田川は、下流が『旧矢田村』を流下していたことに由来する。

・ 矢田川下流区間

矢田川下流区間は、宮前橋(7.0k)から瀬戸川合流点(17.2k)までの 10.2km で、途中、下流より、香流川、隅除川、天神川が合流している。なお、守山川は、宮前橋下流の直轄区間で矢田川に合流している。

河道は、ほぼ全区間が有堤河道であり、東名高速道路より下流では矢田川の計画高水位と堤内地盤高の差が最大約 3m である。河川幅は、隅除川合流点より下流が 160～200m、上流が 100～130m 程度あり、全区間の左右岸には、高水敷があり、低水路幅は 20～30m である。河床勾配は、下流部で 1/600～1/400、上流部では 1/300 程度で、圏域内の他の河川に比べ緩勾配である。

河川の整備は、現在までに、宮前橋から 16.3k に位置する仮落差工間の約 9.3km は改修が完了しており、仮落差工から瀬戸川合流点間の約 0.9km が未改修である。

宮前橋から瑞鳳橋^{すいほう}(13.0k)の約 6km 間は、公園的に整備が行われ、レクリエーションの場として市民に親しまれている。瑞鳳橋から仮落差工の約 3.3km 間は、「多自然型川づくり」により河川整備が進められ、都市近郊を流れる河川としては、自然豊かな様相を呈しており、身近に自然を感じられるように、遊歩道の整備も行われた。

沿川には市街地が広がり、東名高速道路(12.4k)下流は名古屋市に位置し、矢田川は密集市街地を流下している。



矢田川 小原橋下流9.8k付近



矢田川 稲葉橋下流14.5k付近

写真 - 1.2.1 矢田川下流区間河川現況

・矢田川上流区間

矢田川上流区間は、瀬戸川合流点(17.2k)から法河川上流端(22.4k)までの区間であり、下流より水無瀬川^{いばやし}、井林川、大六川、神明川^{しんめい}、薬師川^{やくし}等の多数の小河川が合流している。

河道は、区間内の下流部が有堤河道、上流部が掘込河道で、河川幅は 40～60m、河床勾配は 1/250 以上の急勾配で、落差工や堰^{せき}が多く設けられている。

河川の整備は、一部区間を除き既計画による一次改修が完了している。

平成 9 年から平成 12 年には、「水辺の緑の回廊」整備事業により、堤防法面に、アラカシ、エノキ、ムクノキなどを地域住民と協働で植樹した。現在では、堤防法面や河道内に植生が繁茂し、良好な自然環境を形成している。

沿川は、水田などの耕地に主に利用されているが、宅地も点在する。本区間は、愛知用水補給区域の上流側に位置するため、河川沿いの耕作地は、主に河川より農業用水を取水し利用している。

地域住民は、今までも、矢田川上流区間を『山口川^{やまぐち}』と呼んでいる。



矢田川 天白歩道橋下流18.1k付近



矢田川 屋戸橋下流22.2k付近

写真 - 1.2.2 矢田川上流区間河川現況

○ 守山川

守山川は、矢田川下流右岸の名古屋市守山区に位置し、宮前橋下流で矢田川に合流する河川延長約 2.7km、流域面積約 2.6km²の河川である。

平成 21 年 4 月に愛知県から名古屋市に河川管理権限が委譲され、現在は名古屋市が管理している河川である。

河道は、全区間概ね掘込河道で、河川幅は約 5m、河床勾配は 1/1,000～1/200 である。

河川の整備は、昭和 60 年代までに一次改修が完了しており、コンクリート三面張の河川である。矢田川合流点には、逆流防止水門が設置されている。

流域はほぼ全てが市街化され、河川沿川には家屋が連担している。



守山川 0.5k付近



守山川 2.6k付近

写真 - 1.2.3 守山川河川現況

○ 香流川

香流川は、長久手市岩作、三ヶ峯付近の標高 160m 級の丘陵地に源を発し、途中、堀越川、香桶川を合流して長久手市の中心部を南東から北西に貫流した後、雁又川、森孝川と合流し名古屋市に入り、名古屋市名東区藤里町で藤ノ木川が合流し、千種区竹越で矢田川に合流する河川延長約 8.9km、流域面積約 28.3km²の河川である。

流域は、上流部の長久手市では平地部が宅地や耕作地に利用され、下流部の名古屋市では市街地が形成されている。

沿川の大規模な土地区画整理事業と合わせた整備により、概ね全川一次改修が完了している。

香流川は、瀬戸川とともに、矢田川の主要支流で、古くは『野田川』とも、『金連川』、『金流川』とも言われていた。

・香流川下流区間

香流川下流区間は、矢田川合流点から森孝川合流点(5.1k)までの名古屋市内を流下する区間である。河道は、名古屋第二環状自動車道(2.3k)より下流が有堤河道であり、矢田川合流点から1.0k付近に合流する八^{はちまゑ}前川までは、香流川の計画高水位と堤内地盤高との差が最大約2.0mである。その上流は大半が掘込河道である。河川幅は約30m、河床勾配は1/400～1/300程度である。

矢田川合流点から名古屋第二環状自動車道下流(2.3k)間の約2.3kmについては、名古屋市が都市基盤河川改修事業により下流から改修を実施し、この区間については平成23年度までに完了した。香流川の水辺空間は、名古屋市内の貴重なオープンスペースとして期待されており、河川が本来有している動植物の生息・生育・繁殖環境や多様な河川景観を保全・創出する「多自然川づくり」により河川の整備を行った。

堤防は、桜並木が続く『香流川緑道』として整備されており、春には『桜祭り』が行われるほか、サイクリングや散策路として地域住民に利用されて、憩いの場となっている。

沿川は、大規模な土地区画整理事業で形成された市街地が広がっている。

河川水は、古くは農業用水として利用されていたが、市街化の進展により現在は使用されていない。



香流川 香月人道橋下流2.1k付近



香流川 4.1k付近

写真 - 1.2.4 香流川下流区間河川現況

・香流川上流区間

香流川上流区間は、森孝川合流点(5.1k)から法河川上流端(8.9k)までの長久手市を流下する区間で、香桶川、雁又川等の支川が合流して、長久手市中心部を東から西に流下している。

河道は、大部分が掘込河道で、河川幅は 20～30m、河床勾配は 1/200 程度である。

河川の整備は、一部区間を除き、一次改修は完了している。河川改修は、区画整理事業と合わせて実施した区間が多く、石田橋上流に河川の湾曲部を利用したピオトープを設置するとともに、香桶川合流点から岩作橋間については、自然な流れの創出を目指した「多自然型川づくり」で河川改修が行われ、現在は水際の植生が回復している。

河川沿いに市街化が進展し、家屋が連担しているが、上流部では耕地も点在している。



香流川 石田橋下流5.4k付近



香流川 南島橋上流7.9k付近

写真 - 1.2.5 香流川上流区間河川現況

○ 隅除川

隅除川は、^{あま}雨池を水源として、西方に流れた後、名古屋第二環状自動車道下流で南に方向を変え、矢田川に合流する河川延長約 1.9km、流域面積約 2.6km²の河川である。

平成 21 年 4 月に愛知県から名古屋市に河川管理権限が委譲され、現在は名古屋市が管理している河川である。

河道は、1.0k 付近より下流の右岸が有堤であるが、それ以外は掘込河道である。河川幅は約 10m、河床勾配は、下流が 1/400～1/300、上流部では 1/100 以上の急勾配である。

河川の整備は、昭和 60 年代までに一次改修が完了している。

流域の下流域はほとんどが市街地であり、沿川は家屋が連担している。雨池より上流は^{おぼた}小幡緑地(名古屋市)に位置している。



隅除川 0.3k付近



隅除川 喜多呂橋下流1.5k付近

写真 - 1.2.6 隅除川河川現況

○ 天神川

天神川は、尾張旭市の^{ひら}平池を水源とし、尾張旭市南部を東から西に矢田川と並行して流下し、矢田川に合流する河川延長約 3.8km、流域面積約 8.4 km²の河川である。

河道は概ね掘込河道であり、河川幅は約 10m、河床勾配は 1/300～1/150 程度である。

矢田川合流点から一丁田橋^{いっちょうだ}(2.3k)間の約 2.3km は、土地区画整理事業と合わせて河川改修が行われ、その後、平成 16 年度から平成 21 年度に一丁田橋から^{まえだ}前田橋(3.2k)の暫定的な改修が行われた。その上流は、尾張旭市役所等が位置する市の中心市街地が形成されているが、未改修区間である。

流域の大半は市街地によって占められ、中流の平地部は一部耕地として利用されている。



天神川 郷土橋下流0.2k付近



天神川 前田橋下流3.2k付近

写真 - 1.2.7 天神川河川現況

○ 瀬戸川

瀬戸川は、瀬戸市中央部の標高 200m 級の丘陵地に源を発し、瀬戸市中心部を西に流下し、尾張旭市に入り、尾張旭市の東南部で本川矢田川に合流する河川延長約 6.2km、流域面積約 15.7km²の河川である。

河道は、1.0k 付近より下流部が有堤河道であるが、大部分は掘込河道である。河川幅は、瀬戸市役所前(3.2k)より下流が 30～45m、その上流は 10～20m で、河床勾配は 1/200 前後の急勾配で、落差工が多数設けられている。

瀬戸市役所より上流については、「瀬戸川文化プロムナード計画」により、市街地再開発等の街づくりと一体となった河川改修を下流より順次を進め、瀬戸橋下流(4.2k)から記念橋下流(4.9k)間の 0.7km で現在河川改修を実施している。

流域の大半は市街地が占め、中上流部は古くから市街地が発達し、この一帯は古くからの陶磁器の一大産地であり、その産業排水による水質汚濁が進んでいたが、近年、下水道整備の進捗や河川浄化の意識の高まり等により、水質が徐々に改善されてきている。

瀬戸市役所より下流は、高水敷が広く、瀬戸市により「緑地」に指定されており、休日には沿川住民が利用している。



瀬戸川 0.9k付近



瀬戸川 吉田橋下流3.2k付近



瀬戸川 4.7k付近



瀬戸川 東橋上流5.5k付近

写真 - 1.2.8 瀬戸川河川現況

【庄内川上流ブロック】

庄内川上流ブロックに位置する河川は、^{はった}八田川、^{いくじ}生地川、^{うつつ}内津川、^{おおたに}大谷川、^{じぞう}地蔵川(上流)、^{ながと}長戸川、^{のぞう}野添川、^{しげた}繁田川、^{しんしげた}新繁田川、^{みずの}水野川、^{うぐい}鰻川の 11 河川であり、ブロック面積は約 115.6km² である。

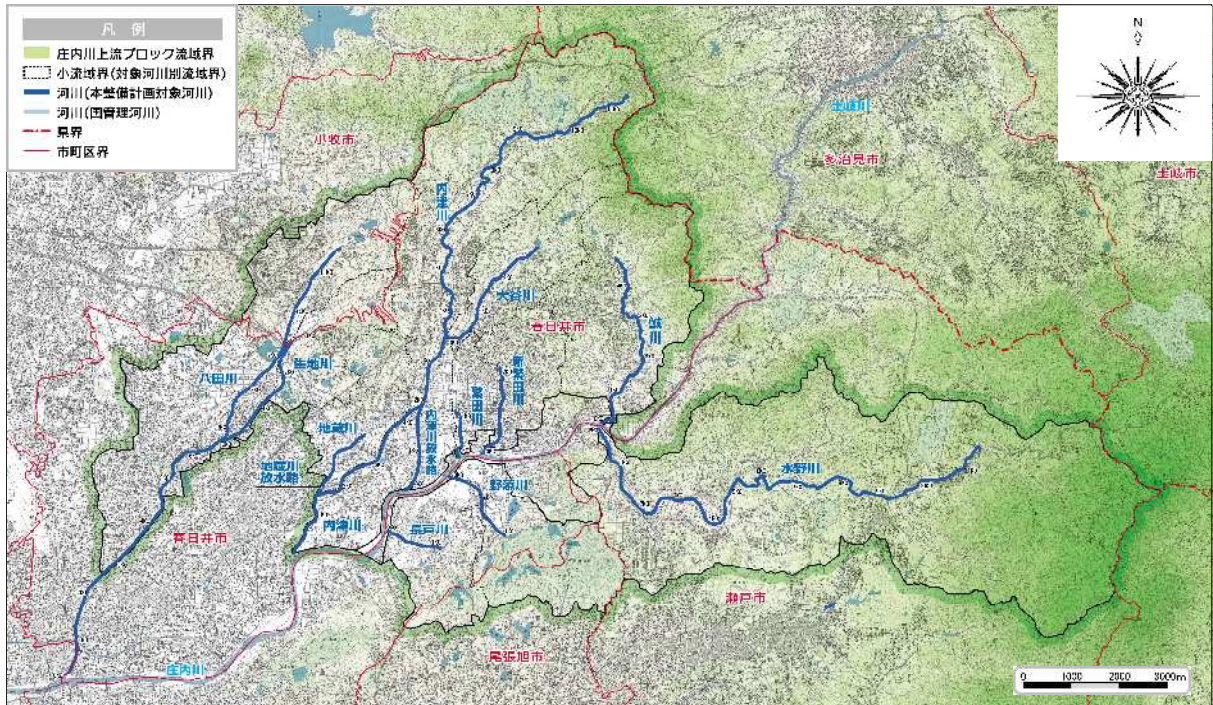


図 - 1.2.2 庄内川上流ブロック図

○ 八田川

八田川は、小牧市東部の丘陵部にある^{だいら}太良上池、^{だいら}太良下池を水源とし、南西に流下し、途中、^{しんこつつ}生地川が合流し、その下流で新木津用水が流入した後、下流部の春日井市西部で^{しんじぞう}新地蔵川が伏せ越しし、春日井市と名古屋市北区の市境を流下し、庄内川に合流する河川延長約 11.6km、流域面積約 19.5km² の河川である。

八田川は、小牧市東南部から春日井市にかけて位置しており、流域は大半が平地部であり、下流部には春日井市の市街地が位置し、上・中流部の河川沿いは耕地として利用されている。

河川水は、古くから農業用水として利用され、上流部の丘陵地には、太良上池、太良下池、^{しもはら}下原^{おお}大池等の農業用ため池が多く点在している。

・ 八田川下流区間

八田川下流区間は、当初県管理区間であったが、昭和 58 年 4 月に、「流況調整河川木曽川導水事業」の採択に伴い、庄内川合流点から新木津用水流入点(4.8k)までの約 4.8km が直轄区間に編入された。その後、平成 12 年の事業の中止に伴い、平成 20 年 4 月に再び県管理区間となった。

河道は、4.0k 付近から下流は有堤河道で、庄内川合流点から 1.0k 付近までは、八田川の計画高水位と堤内地盤高の差が最大約 5.0m である。なお、1.0k 付近で新地藏川が八田川を伏せ越している。河川幅は 25～30m 程度、河床勾配は、庄内川合流点から 2.4k 付近までが 1/900 程度、2.4k 付近より上流が 1/400 程度と比較的緩勾配の河川である。

庄内川合流点から美濃橋上流(2.8k)間は、平成 12 年 9 月の東海豪雨を契機に「緊急河道改修事業」が国により実施され、平成 18 年度に概成した。また、平成 23 年 9 月の台風 15 号に伴う豪雨により越水が生じた御幸橋下流(0.5k)から南花長橋上流(1.2k)間については応急対応として、越水した実績水位に対応した堤防嵩上げ工(パラペット工)を施工した。

河川沿いは、^{へいたん}平坦な地形のため、市街地が広がり、堤防沿いに家屋が連担している。



八田川 1.4k 付近



八田川 東漸寺橋下流 2.4k 付近



八田川 稲口橋下流 3.4k 付近



八田川 御殿橋下流 4.6k 付近

写真 - 1.2.9 八田川下流区間河川現況

・八田川上流区間

八田川上流区間は、新木津用水流入点(4.8k)から法河川上流端(11.6k)までの約 6.8km で、途中、生地川が合流し、区間下流端で新木津用水が流入している。

河道は大部分の区間が掘込河道で、河川幅は約 20m、河床勾配は、9.0k 付近より下流が 1/400～1/300、上流が 1/200 程度の急勾配で、多くの落差工や取水堰が設けられている。

新木津用水流入点上流の右岸側には^{あさみや}朝宮公園が位置し、朝宮公園と河川沿いに整備された緑道が一体的に市民の憩いの場として利用されているほか、生地川合流点付近と大池周辺には公園や緑道が整備され良好な親水空間が形成されている。

河川沿いは、生地川合流点より下流では市街地が形成されているが、その上流では耕地が広がっている。

上流の小牧市に位置する区間では、『^{おおくさ}大草川』とも呼ばれている。



八田川 長池橋下流5.4k付近



八田川 新大草橋上流9.6k付近

写真 - 1.2.10 八田川上流区間河川現況

○ 生地川

生地川は、小牧市南東部の丘陵地に源を発し、八田川とほぼ並行して南西に流下して春日井市に入り、八田川に合流する河川延長約 2.8km、流域面積約 4.3km²の河川である。

河道は大部分が掘込河道で、河川幅は 10～15m、河床勾配は 1/250 以上の急勾配である。

八田川合流点から^{おちあい}落合公園間の河川沿いには、河川公園が整備され、親水護岸や緑道が設けられ、沿川住民に利用されている。また、上流部には、せせらぎを築造した自然公園が整備され、利用されている。

流域の大半は平地が占め、下流域は市街地が形成されており、上流域は現在も耕地として利用されている。



生地川 池合橋下流0.6k付近



生地川 東山橋上流2.0k付近

写真 - 1.2.11 生地川河川現況

○ 内津川

内津川は、岐阜県との県境に位置する内津峠に源を発し、春日井市の東部地区を北東から南西に流下し、大谷川等の支川が合流し、春日井市を貫流して庄内川に合流する河川延長約 14.8km、流域面積約 31.3km²の河川である。

内津川下流沿川では、たびたび浸水被害が発生していたため、洪水被害を軽減するために、約 1.8km の内津川放水路が平成 9 年度に、地蔵川・新地蔵川の洪水被害を軽減するため地蔵川上流部の洪水を内津川に流す約 0.2km の地蔵川放水路が平成 21 年度に完成した。

上流域は大半が丘陵地で山林が広がっているが、中流域は名古屋市のベッドタウンとして高蔵寺ニュータウンなどの大規模宅地開発が進められ、現在は市街地が形成されている。JR 中央本線の高蔵寺駅や^{じんりょう}神領駅などの交通の便に恵まれている下流域は、区画整理事業により住宅地や商業地が発展してきており、現在も土地区画整理事業が実施されている。

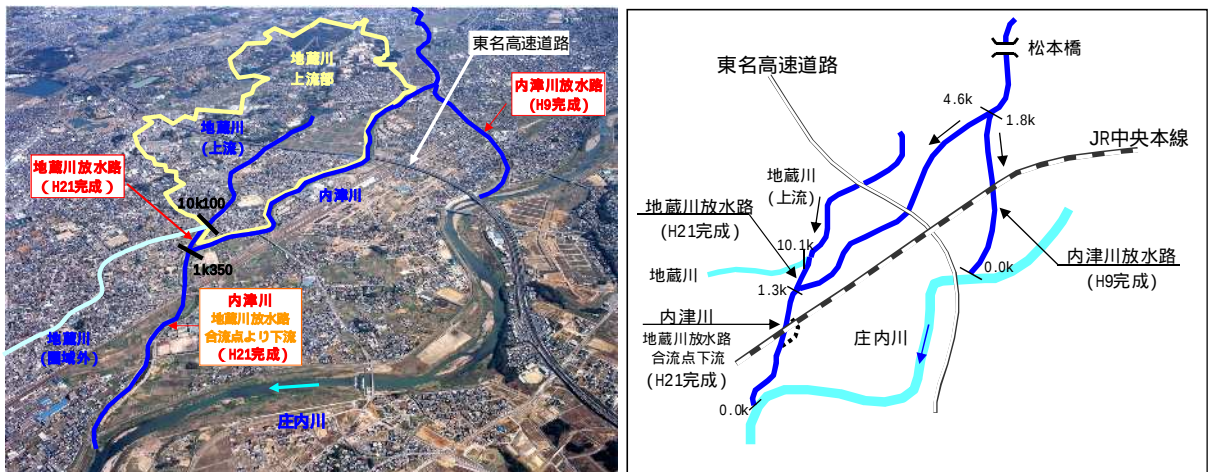


図 - 1.2.3 内津川下流部の現況

・内津川下流区間

内津川下流区間は、庄内川合流点から大谷川合流点(6.2k)までの区間で、途中、4.6k 地点で内津川放水路と分流し、1.3k 地点で地蔵川放水路が合流している。

河道は概ね有堤河道で、庄内川合流点から 1.0k 付近の JR 中央本線までは、内津川の計画高水位と堤内地盤高の差が最大約 2m である。河川幅は 20～40m、河床勾配は、下流部が 1/600 程度、中・上流区間は 1/400～1/300 である。

地蔵川放水路の整備に伴い、庄内川合流点から地蔵川放水路合流点上流の約 1.4km 間についても、河川改修が平成 21 年度に完成した。

河川の利用は、2.0k 付近から上流の高水敷で、河川空間を利用したテニスコート等の運動公園や緑地が整備されている。

河川沿いは、市街地が形成されている。



内津川 地蔵川放水路合流点1.3k付近



内津川 出川橋下流4.0k付近

写真 - 1.2.12 内津川下流区間河川現況

・内津川放水路区間

内津川放水路は、昭和 55 年度に着工し、平成 3 年 9 月の台風 18 号による内津川の破堤氾濫による緊急整備もあり、平成 9 年度に完成した開削水路であり、内津川 4.6k 付近から庄内川をむすぶ河川延長 1.8km の放水路である。

放水路は、概ね掘込河道で、河川幅は約 40m、河床勾配は 1/550 ～ 1/300 で、多くの落差工が設けられている。

内津川放水路整備事業は、「ふるさとの川モデル事業」として、沿川の土地区画整理事業と合わせて、親水性、景観性に配慮し、街づくりと一体となった整備が実施された。

河川沿川は、土地区画整理事業により形成された市街地が広がっている。



内津川放水路 0.7k付近



内津川放水路 1.7k付近

写真 - 1.2.13 内津川放水路区間河川現況

・内津川上流区間

内津川上流区間は、大谷川合流点(6.2k)から法河川上流端(14.8k)までの約 8.6km の区間で、途中、西洞川、引沢川等の支川が合流し、春日井市東北部の丘陵地を南西に流下している。

河道は大部分が掘込河道で、河川幅は 15 ～ 30m、河床勾配は 1/200 以上の急流河川で、国道 19 号付近(10.1k)より上流の山間部には、河道が大きく湾曲している箇所が多くある。

河川の整備は、区間下流端より河川改修を順次実施し、平成 11 年度までに御天王橋下流(9.9k)までの河川改修が完成した。平成 12 年 9 月の東海豪雨では、その上流の 10k ～ 11k 付近で河川が氾濫したこともあり、現在 9.9k から 11.1k 間を対象に河川改修を実施しており、障子橋付近(10.2k)までの河川改修が完了した。

河川沿川は、主に耕地として利用されているが、集落も点在している。



内津川 一色橋上流6.9k付近



内津川 上田橋上流10.8k付近

写真 - 1.2.14 内津川上流区間河川現況

○ 大谷川

大谷川は、岐阜県との県境に位置する^{みろくさん}弥勒山(標高 437m)に源を発し、^{ちくすい}築水池を経て平地部に入り、途中^{ひがしおたに}東大谷川が合流し、内津川に合流する河川延長約 2.8km、流域面積約 5.4km²の河川である。

河道は大部分が有堤河道で、河川幅は 15～30m、河床勾配は 1/200～1/100 である。

流域内には、高蔵寺ニュータウンが一部位置しており、高蔵寺ニュータウンの開発に伴う流出増に対応するため河川改修が、昭和 42 年から昭和 50 年に実施された。

河川沿いは、耕地が広がり、主に^{やますて}山裾から丘陵地に市街地が形成されている。

河川水は古くから農業用水として利用され、多くの取水堰(落差工)が設けられている。



大谷川 0.7k付近



大谷川 神多橋上流2.3k付近

写真 - 1.2.15 大谷川河川現況

○ 地藏川(上流)

地藏川(上流)は、春日井市^{かながくち}金ヶ口町の段丘崖南部に位置する金ヶ口池を水源とし、内津川に並行して南西に流下して新地藏川を経て新川に合流する河川であったが、平成 21 年度の地藏川放水路の完成に伴い、地藏川の上流の流れは春日井市^{はきだ}関田町の 9.9k 付近から内津川に付け替えられ、内津川 1.4k 付近に合流することになった河川延長約 1.8km、流域面積約 4.0km²の河川である。

河道は概ね掘込河道であり、東名高速道路(11.3k)より下流は河川幅が約 20m、河床勾配が約 1/300、その上流は河川幅が約 10m、河床勾配が約 1/200 である。現在、東名高速道路との交差部は狭小な^{かんきよ}函渠となっている。

沿川は、東名高速道路より下流は市街地が形成され、その上流は水田等の耕作地に利用されている。



地藏川放水路 関田東橋下流10.1k付近



地藏川 やまぎわ橋下流11.2k付近

写真 - 1.2.16 地藏川(上流)河川現況

○ 長戸川

長戸川は、名古屋市守山区志段味地区に位置し、尾張旭市境にまたがる滝ノ水池を水源とし、下志段味長根・長戸地区を西に流れ、下志段味落合で庄内川に合流する河川延長約 1.2km、流域面積約 4.8km²の河川である。

平成 23 年 4 月に、愛知県から名古屋市に河川管理権限が委譲され、現在は名古屋市が管理している河川である。

河道は概ね掘込河道であり、河川幅は約 20m、河床勾配は 1/300 程度である。

河川の整備は、志段味地区の土地区画整理事業と合わせ、名古屋市が都市基盤河川改修事業により実施し、平成 16 年度に概成した。また、最下流部の庄内川合流点付近は、平成 23 年 9 月の豪雨を受け、国による災害対策事業により堤防の嵩上げを実施した。

流域では、上流部から下流部にかけて土地区画整理事業が現在も実施中であり、新たに市街地が形成されてきている。



長戸川 西の原橋下流0.3k付近



長戸川 長戸橋下流1.2k付近

写真 - 1.2.17 長戸川河川現況

○ 野添川

野添川は、名古屋市守山区志段味地区に位置するカケヒ池を水源とし、上志段味と中志段味の境を流下し、上志段味安川原地内^{やすかわはら}で庄内川に合流する河川延長約 1.8km、流域面積約 6.3km²の河川である。

平成 23 年 4 月に、愛知県から名古屋市に河川管理権限が委譲され、現在は名古屋市が管理している河川である。

河道は概ね掘込河道であり、河川幅は約 20m、河床勾配は 1/300 程度である。

河川の整備は、上志段味、中志段味の土地区画整理事業による宅地開発に伴い、平成 4 年度に河川改修に着手し、治水と自然環境に配慮した「多自然川づくり」による河川改修が現在も行われている。

流域では、現在のところ耕作地も残されているが、土地区画整理事業により新たに市街地が形成されてきている。また、大村池、大久手池、安田池、大広見池等のため池が多く残されている。



野添川 0.5k付近



野添川 人道橋下流1.3k付近

写真 - 1.2.18 野添川河川現況

○ 繁田川

繁田川は、春日井市に位置し、高蔵寺ニュータウンを源とし、南流して庄内川に合流する河川延長約 1.1km、流域面積約 2.0km²の河川である。

河道は、0.3k 付近より下流は有堤河道で、その上流は掘込河道で、河川幅は 10～20m、河床勾配は 1/200 程度である。

河川の整備は、高蔵寺ニュータウンの開発に伴う流出増に対応するための河川改修が実施され、当時の繁田川上流部が新繁田川に付け替えられ、現在の流路となった。その後、下流域の土地区画整理事業による流出増に対応する河川改修が実施され、平成 22 年度に概成した。

流域の大半は平地が占め、下流部から上流部の平地は土地区画整理事業によって市街地が形成された。



繁田川 向田橋下流0.3k付近



繁田川 1.0k付近

写真 - 1.2.19 繁田川河川現況

○ 新繁田川

新繁田川は、高蔵寺ニュータウンを源とし、途中、^{みあらい}身洗川が合流し、庄内川に合流する河川延長約 2.1km、流域面積 3.3km²の河川である。

河道は、0.9k から 1.6k の約 0.7km の右岸が有堤になっているほかは、掘込河道である。河川幅は約 10m、河床勾配は 1/350～1/200 である。

河川の整備は、繁田川とともに、高蔵寺ニュータウンの開発に伴う河川改修が、昭和 36 年か

ら昭和 42 年に実施された。この河川改修は、高蔵寺ニュータウンの開発に伴い繁田川の流路を途中から南流するように流路を変え、下流において身洗川が合流するように開削する工事で、この工事により現在の流路となった。この改修以前は、河川の東に位置する高座山^{たかくら}付近に源を発する身洗川が新繁田川にあたる。

0.5k から 1.5k 付近までは兩岸には、桜並木が設けられている。

流域は、高蔵寺ニュータウンなどの土地区画整理事業等で形成された市街地で占められている。

新繁田川は、この改修により『新繁田川』として指定された。



新繁田川 0.3k 付近



新繁田川 朝日橋下流1.6k 付近

写真 - 1.2.20 新繁田川河川現況

○ 水野川

水野川は、瀬戸市の北部に位置し、岐阜県との県境に位置する三国山^{みくに}(標高 701m)に源を発し、鳥原川^{とりはら}、本郷川^{ほんごう}等の支川を合流して西流し、北西に転じた後庄内川に合流する河川延長約 11.7km、流域面積約 38.2km²の河川である。

河道は、中流の平地部に位置する 2.0k ~ 5.0k 間を除き、概ね掘込河道である。河川幅は、下流の山地部で約 40m、中流部の平地部で 20 ~ 30m、8.7k より上流の平地部では約 15m である。また、河床勾配は、下流の山地部は 1/100 以上、中流の平地部で 1/300 程度、上流の平地部では 1/200 ~ 1/100 以上で、上流の平地部には落差工が連続して整備されている。

庄内川合流点から 1.2k までの下流は急峻^{きゅうしゅん}な山地河川で、1.2k から 5.4k の約 4.2km 間の中流は平地部で、沿川に水田等の耕作地に広がり、山裾から丘陵部に市街地が形成されているが、河川沿いにも家屋が点在している。その上流の 5.4k から 8.7k 間は一部農地を貫流している以外は山間部を流下している。山間部の上流には、平地部が広がっており、品野地区^{しなの}の集落が形成されており、沿川が宅地や耕作地に利用されている中を流れている。

河川の整備は、局所的な改修が行われてきた。

流域内の大部分は山地や丘陵地で、河川沿いには耕地が広がり、主に山裾に集落が点在しているが、中流の平地部では河川沿いにも、家屋が点在している。

なお、水野川は沿川の村落名がつけられたもので、古くは『品野川』と呼ばれていた。



水野川 水野大橋下流2.9k付近



水野川 北脇橋上流4.6k付近



水野川 向橋下流9.8k付近



水野川 会津橋下流10.2k付近

写真 - 1.2.21 水野川河川現況

○ 鰯 川

鰯川は、春日井市高蔵寺ニュータウン北東の道樹山に源を発し、段丘崖に沿って南流し、隠山川、新池川、鎌芝川等の小河川が合流し、庄内川に合流する河川延長約 4.4km、流域面積約 10.2km² の河川である。

河道は大部分が掘込河道で、河川幅は 10～15m、河床勾配は 1/100 程度の急流河川で、落差工が連続している。

河川の整備は、高蔵寺ニュータウンの開発に伴う流出増に対応するため河川改修が実施され、庄内川合流点から約 1km 間の山地部を除く 3.1km 間について、一次改修が昭和 60 年度に完了した。

庄内川合流点から約 1km 間は急流山間部で、その上流の沿川は住宅地や耕地に利用されているが、右岸に広がっている丘陵地は、高蔵寺ニュータウンが位置し、市街地が形成されている。

なお、鰯川は鰯が遡上する川であったことから名づけられたと言われている。



鰯川 玉橋上流1.1k付近



鰯川 西屋敷橋下流3.0k付近

写真 - 1.2.22 鰯川河川現況